

小笠原諸島振興開発計画に対する意見募集等の状況

東京都は、小笠原諸島振興開発計画の策定にあたり、「素案」について 9 月から 10 月にかけて、都民の方から意見を募集しました。

以下に、意見集約の状況と、主な意見に対する計画の考え方をお示しします。

なお、寄せられたご意見につきましては、その趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。

1 意見の状況

- (1)メールによる意見 8 件
- (2)文書による意見 1 件

2 意見募集期間

平成 21 年 9 月 18 日(金)から 10 月 19 日(月)まで

3 内容に関する主な意見と考え方

(1)交通アクセスについて(19 項目)

<主な意見>

- ・航空路については、幅広く検討ではなく、早急な着工・開港を望む。
- ・航空路について、環境に配慮とあるが、壊された自然は戻らない。誰も責任を取らない開発はやめるべき。
- ・航空路開設について、就航したとしてもプロペラ機のような小型機では電動車椅子などで搭乗できない恐れがあり、一部の人が利用できない空港では利便性が平等に享受できないので、軽々に計画を進めるのは危険。
- ・まず、船舶航路の整備を最優先に考えて航空路開設の計画を検討してもらいたい。

<考え方>

本計画では、本土との交通アクセスの改善のため、自然環境との調和に十分配慮した航空路の将来の開設について幅広く検討を進めることとしています。

この検討に当たっては、東京都と小笠原村で設置した小笠原航空路協議会が実施する P I () 活動により、情報公開を行いながら関係者間の円滑な合意形成を図ってまいります。

また、航路については、利用者の利便性及び快適性の向上と産業の振興を図るため、東京・父島間及び父島・母島間の航路の改善について検討いたします。

今後も、みなさまのご意見を参考に、検討してまいります。

PI（パブリック・インボルブメント:Public Involvement）とは
政策の立案段階や公共事業の構想・計画段階から、住民が意見を表明できる場を設け、そこでの議論を政策や事業計画に反映させる手法のこと。

(2)観光振興について（16項目）

<主な意見>

- ・クルーズ船の誘致によりおがさわら丸や航空路に頼らない新たな切り口が開拓されることを希望する。
- ・来島目的の一つに「天体観測（観望）」を加え、来島者の底辺拡大をしたい。
- ・「海」だけに頼った活動から、「海と陸と空」に拡大した観光事業の展開が必要。

<考え方>

本計画では、戦略的な集客対策により、修学旅行生や中高齢者を中心とした、多様な観光客層を開拓し、閑散期の集客を図ることとしております。

また、戦跡巡りなど歴史や文化的な観光コースや恵まれた自然環境を保全しつつそれを活かした体験交流型の観光メニューの開発を進めることにより、多種多様な観光の展開を図ってまいります。

(3)その他（自然環境保全、住民参画等）（10項目）

<主な意見>

- ・絶対元に戻らない自然を守ることが最重要課題で考えて欲しい。
- ・実際に利用している移動制約者の意見を参画させながら振興整備計画を作って欲しい。小笠原に関わる多様な計画や事業に対して、意見を言える場を今後積極的に作って欲しい。

<考え方>

本計画では、世界的にも貴重な小笠原諸島の自然環境を保全するため、自然保護上重要な地区の調査等を行い、自然の保護を担保する措置等を実施し、同諸島の貴重な自然を後世に継承するため世界自然遺産への登録を目指すこととしています。

また、小笠原諸島の自立的発展に向けて、地域住民の一層の参画を進め、地域の主体的な取組のもとに地域づくりを進めてまいります。

以上